

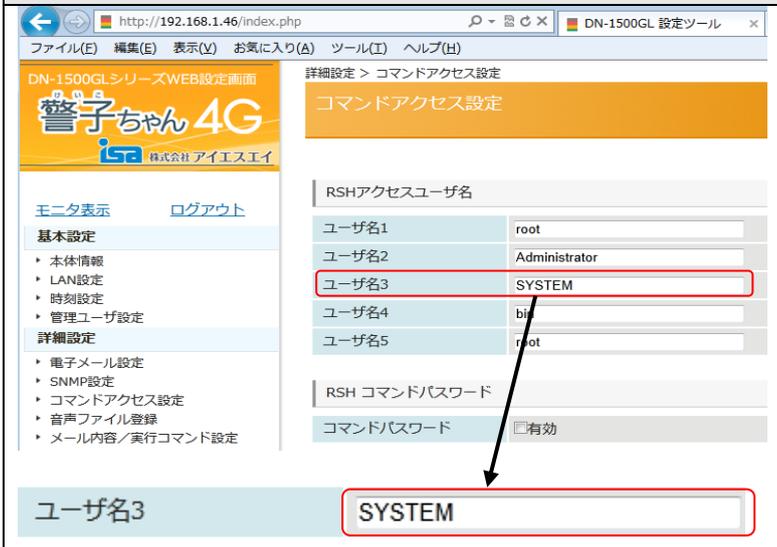
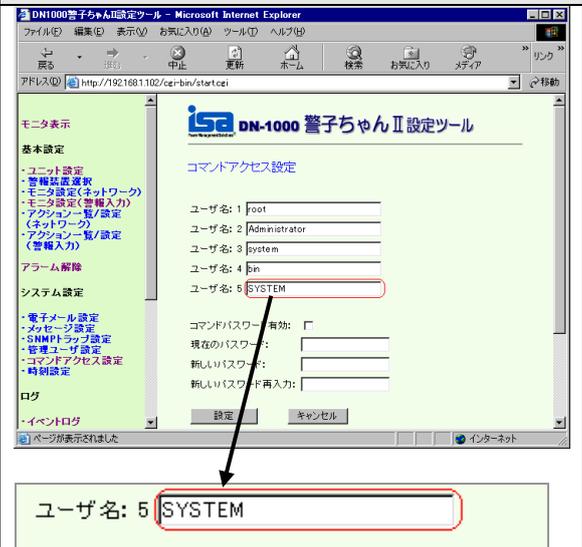
警子ちゃん(DN-1500GL、DN-1510GL、DN-1500GX、DN-1000RN、DN-1000S)とSystemwalkerの連携

～ イベント発生時にランプやブザーをONにする ～

Systemwalkerにてイベント(トラップ)が発生したときに実行する自動アクションコマンドの設定方法について説明します。

[警子ちゃんの設定]

各機設定ツール内「コマンドアクセス設定」ページにて「ユーザ名:」にSYSTEMを登録しておきます。

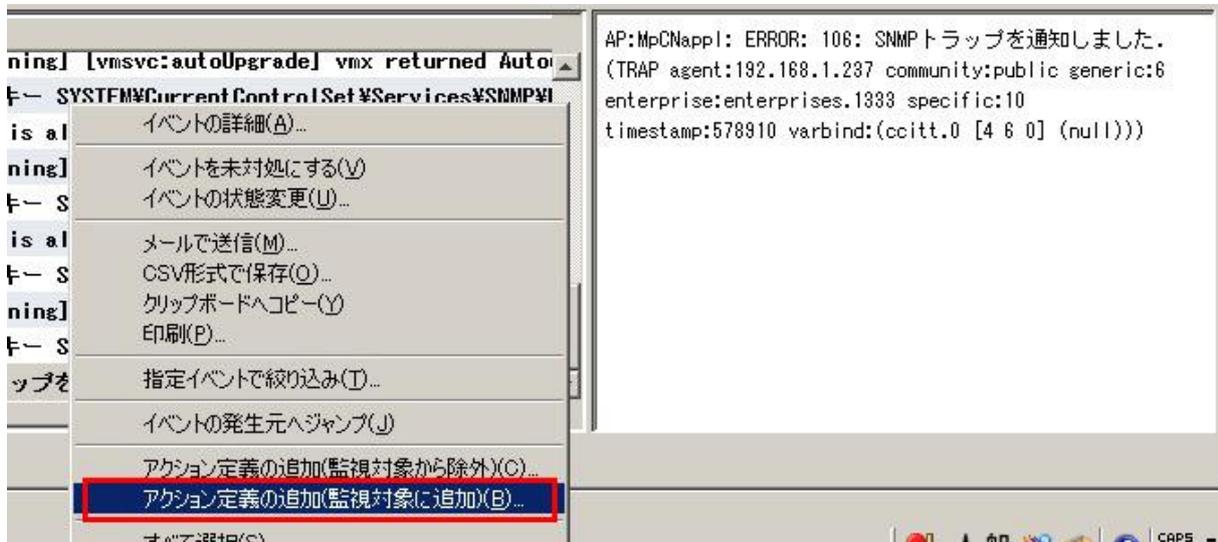
警子ちゃん 4GX、4G、4G+の場合	警子ちゃん II および警子ちゃんミニの場合
	

- ◆ 各機警子ちゃんを動作させる為に、「rsh」コマンドを利用します。
- ◆ Windows用リモートシェル「ISA Remoteshell for Windows "IRSH"」(別売)をご用意いただき、ご使用いただくことをお勧めします。

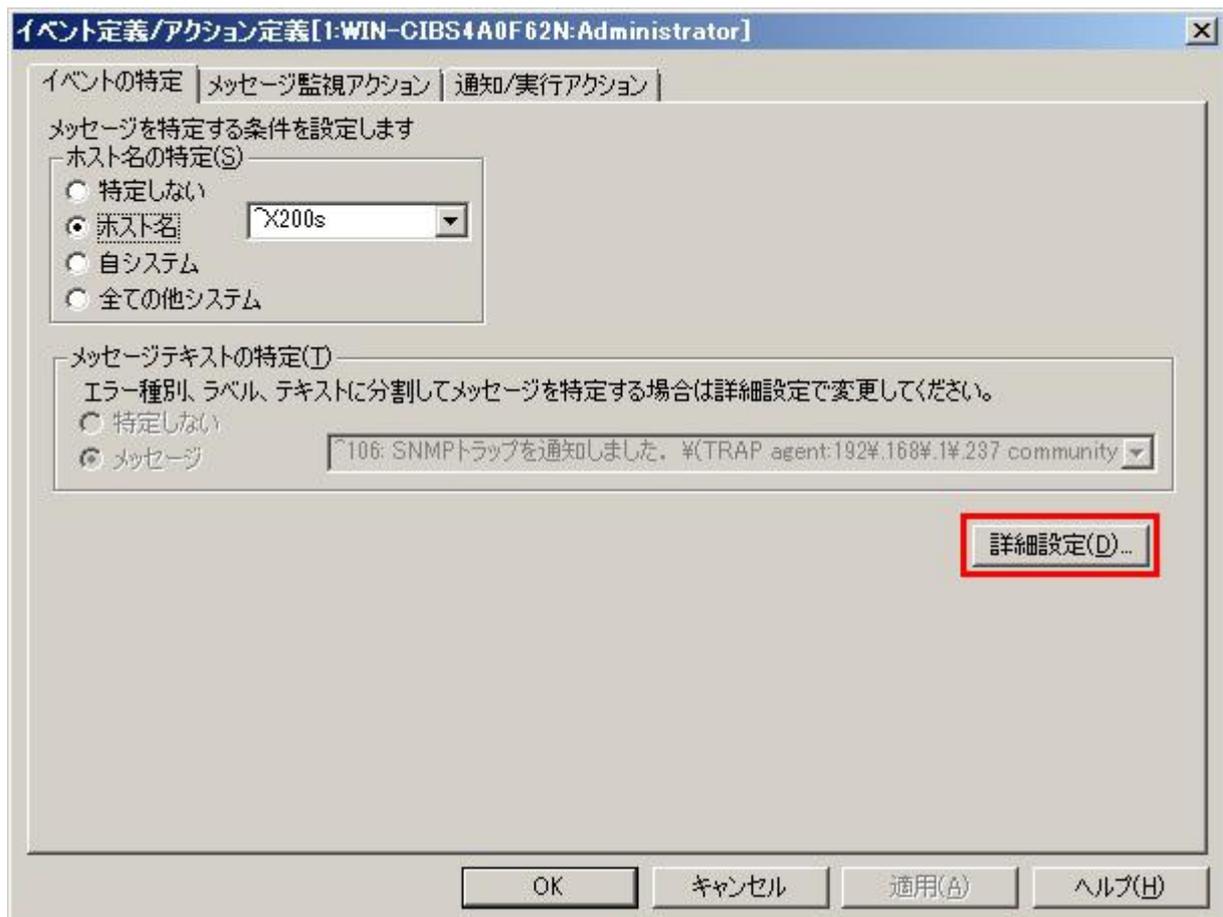
- ※ irsh はコマンド (MS-DOS) プロンプトにてお使いください。
- ※ irsh は任意のフォルダに置いていただくことによって利用可能です。
 - 本説明内では、[C:%cmd] 配下での説明をしております。
- ※ Windows9x 環境のバッチファイルの中でご使用になる場合は、start/w オプションを付加して irsh が完了するまで次のプロセスに移らないようにしてください。

Windows 環境での Systemwalker CentricManager v13.6.0 の設定

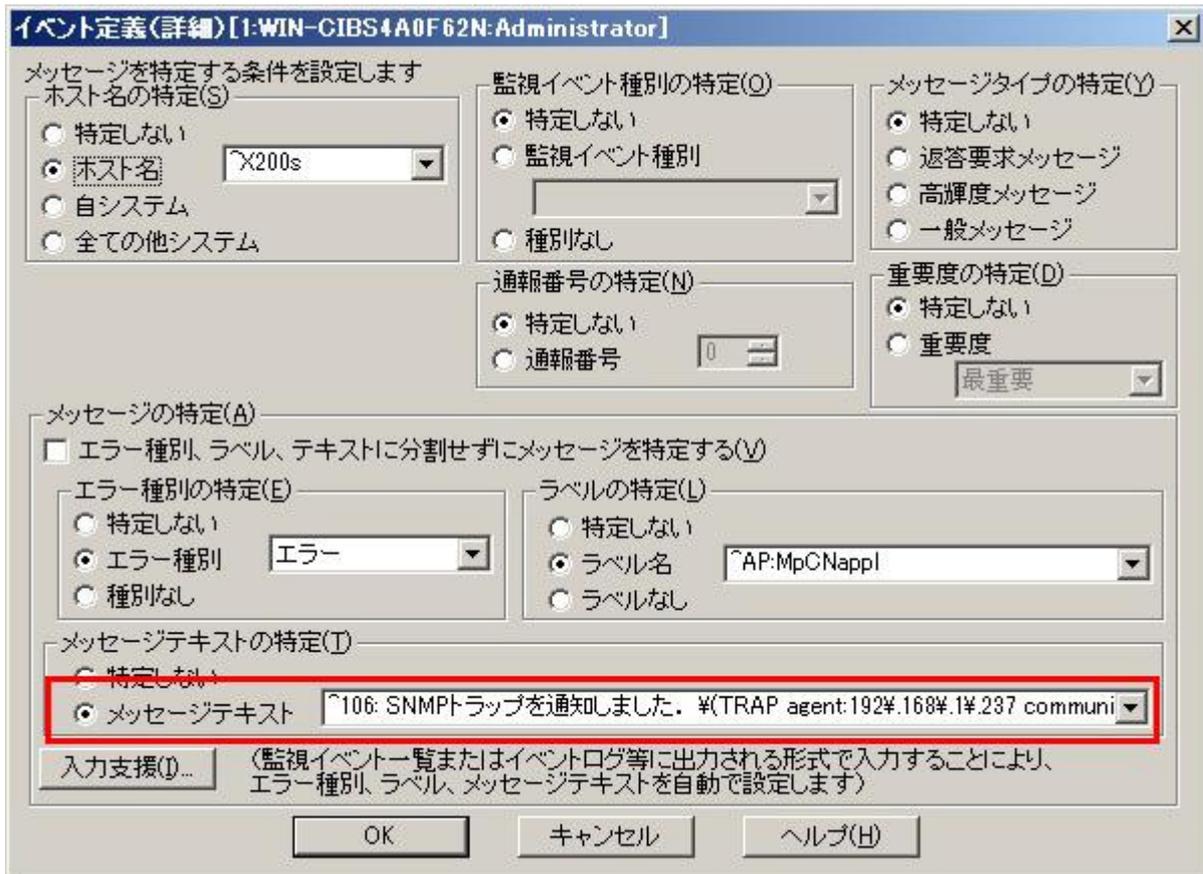
- (1) 「Systemwalker コンソール」から監視対象としたいSNMPトラップを右クリックしてメニューを表示し、「アクション定義の追加（監視対象に追加）」を選択します。



- (2) 「イベント定義/アクション定義」のウィンドウが起動したら、「詳細設定」ボタンをクリックします。



(3) 「イベント定義 (詳細)」のウィンドウが起動したら、「メッセージテキスト」を編集します。



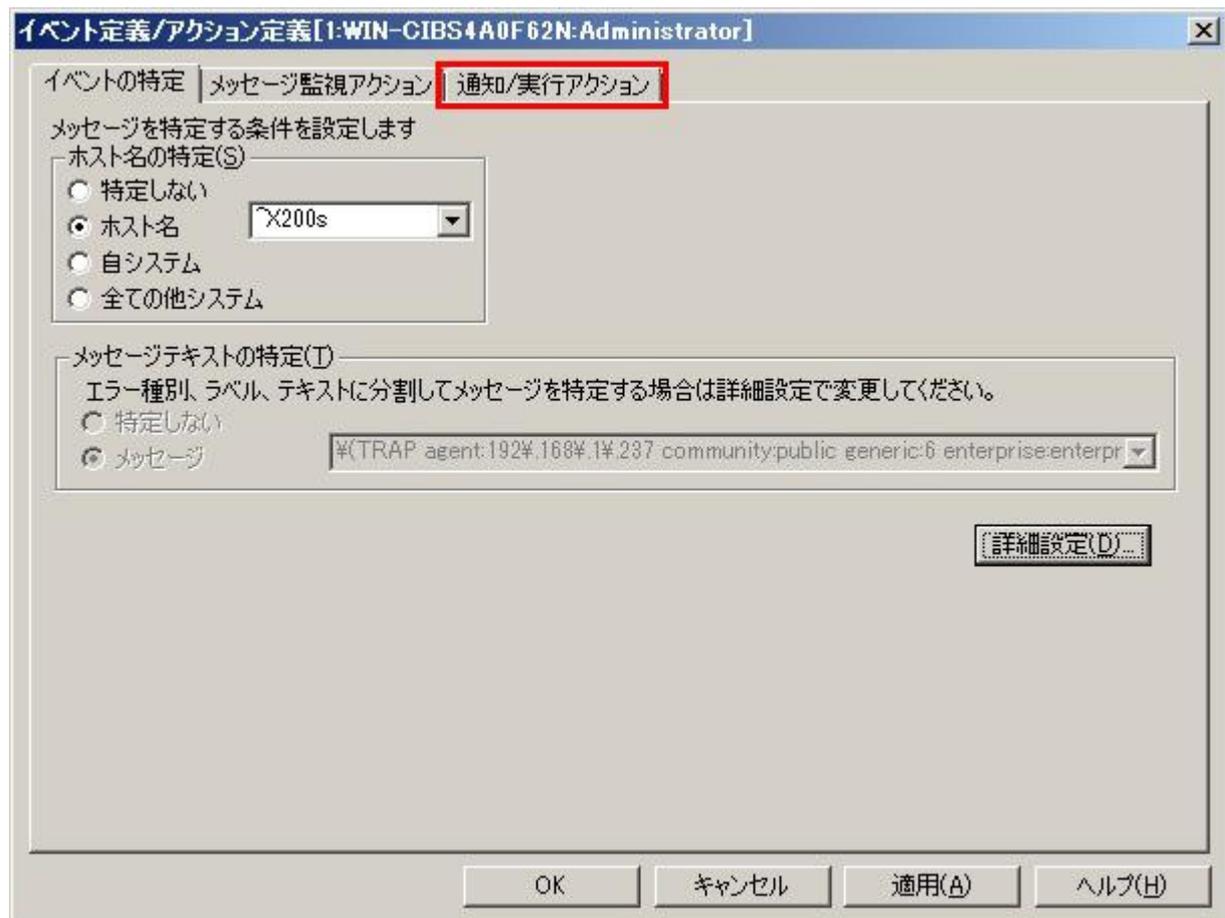
実際にイベントとして発生した SNMP トラップにアクションを定義しようとした場合、そのイベントのユニークな情報が以下のように含まれています。



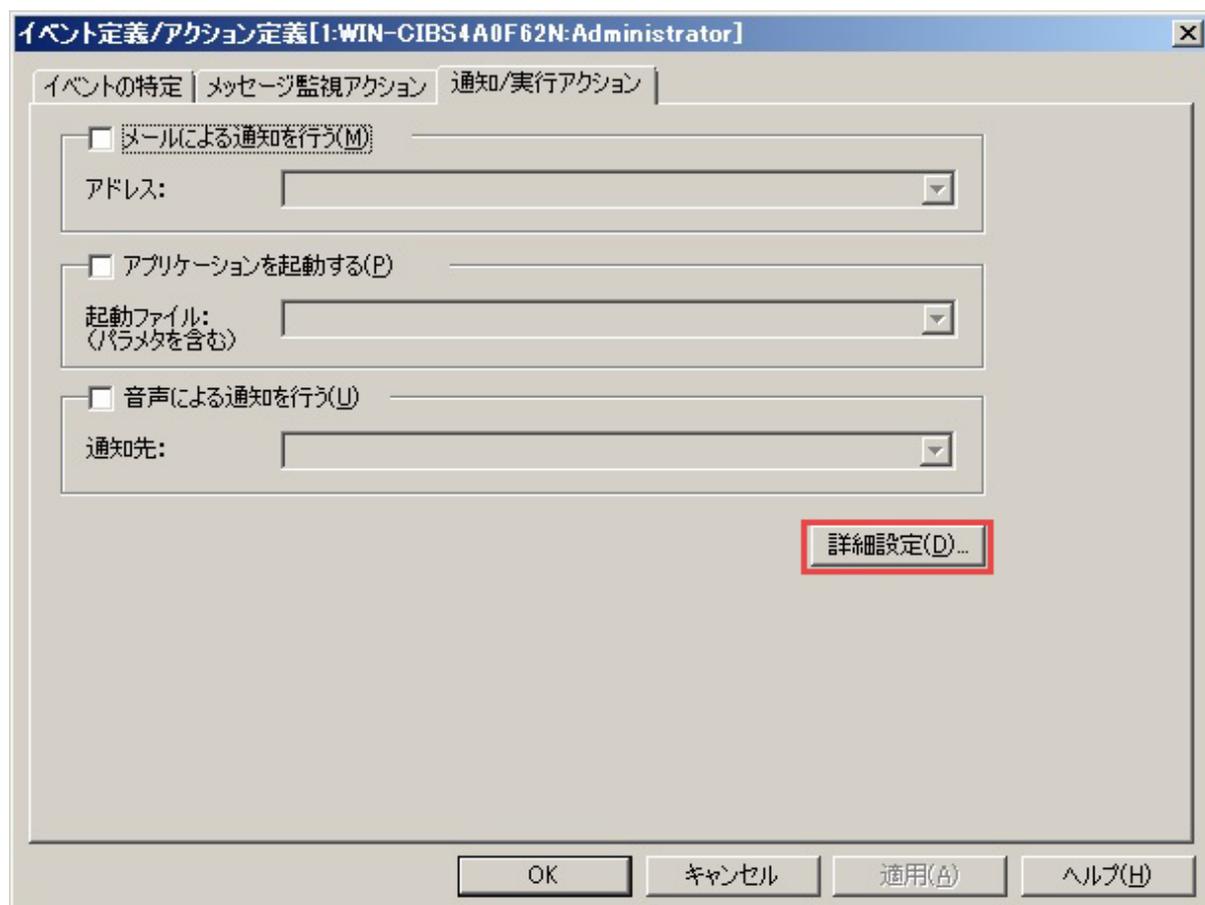
今回の例では、「SNMP トラップ送信元の IP アドレス」「コミュニティ名」「Generic」「Enterprise-ID」「Specific」を監視対象としたいので、以下のように編集します。



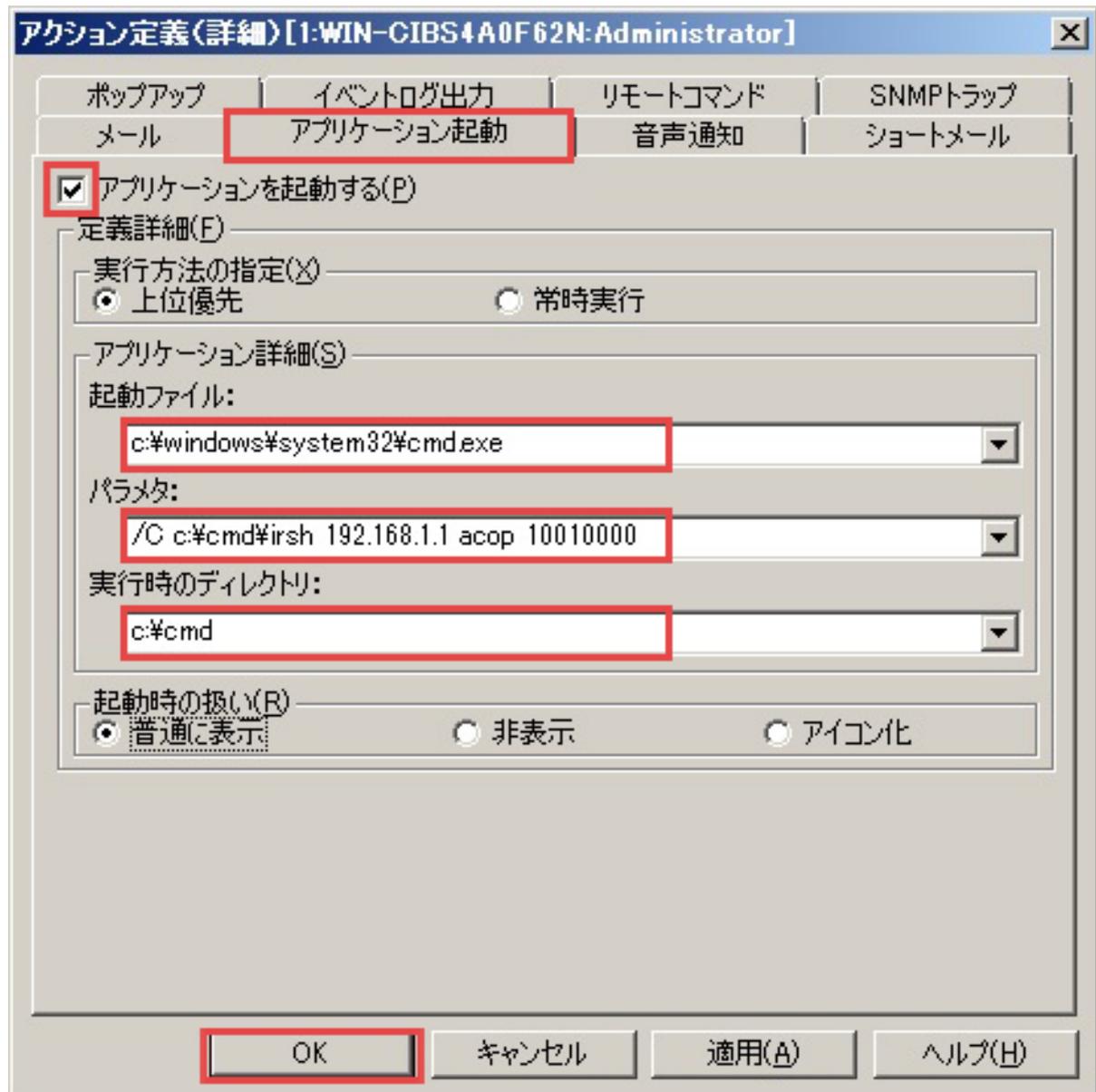
(5) 再び「イベント定義/アクション定義」のウィンドウが表示されたら、「通知/実行アクション」タブをクリックします。



(6) 「イベント定義/アクション定義」のウィンドウが起動したら、「詳細設定」のボタンをクリックします。



(7) 「アクション定義 (詳細)」のウインドウが起動したら、「アプリケーション起動」タブをクリックして、各項目の設定を行います。



「アプリケーションを起動する」: チェックを入れます。

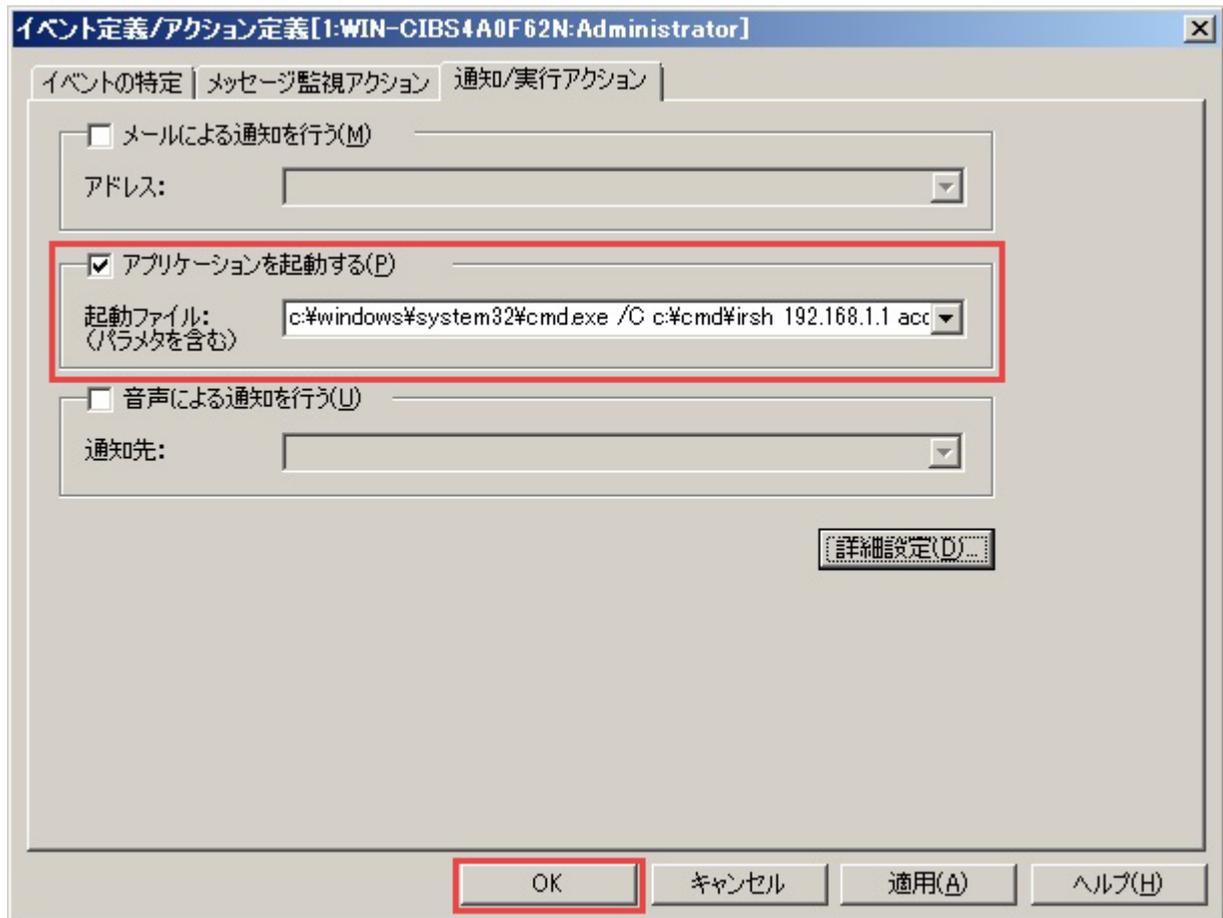
「起動ファイル」: cmd.exe をフルパス指定します。

「パラメタ」: ” /C (警子ちゃんを制御するコマンド) ” という形式で記述します。
※本例では、警子ちゃんの IP アドレスを「192.168.1.1」とします。

「実行時のディレクトリ」: 任意の場所を指定します。

上記の指定が完了したら「OK」ボタンをクリックします。

(8) 再び「イベント定義/アクション定義」のウィンドウが表示されたら、設定が反映されていることを確認します。設定が正しければ「OK」ボタンをクリックして、ウィンドウを閉じます。



(9) 「イベント監視の条件定義」のウィンドウで「ファイル」－「定義の保存」をクリックして、設定を保存します。



(10) 実際に SNMP トラップのイベントを発生させて、警子ちゃんが動作することを確認してください。

以上